

豚の飼養管理実態調査の結果 (中間とりまとめ)

- 1 調査回答状況
- 2 経営関係
- 3 飼養頭数
- 4 飼養管理状況
 - 1) ストール(飼養状況、面積)
 - 2) 1頭当たりの収容面積(スノコ豚舎、オガコ豚舎)
 - 3) スノコの溝の幅(スリット幅)について
 - 4) 給水器(種類、1個当たり頭数)
 - 5) 歯切り(実施の有無、時期、道具)
 - 6) 牙切り
 - 7) 断尾(実施の有無、時期)
 - 8) 去勢(実施の有無、時期)
 - 9) 個体識別(耳刻の実施の有無、時期、その他の個体識別)
 - 10) 照明
- 5 クロス集計結果

1. 調査回答状況

回答者数・性別・年齢（地域別）

地域	全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄	
回答者数(人)	4,708	1,050	1,281	121	277	85	293	1,601	
性別(人)	男	4,256	916	1,188	118	260	80	258	1,436
	女	124	28	18	0	6	3	5	64
	不明	73	7	7	3	4	2	8	42
平均年齢(歳)	57.9	56.6	57.5	55.8	57.2	59.9	59.0	58.9	

平成19年度の調査(平成19年8月1日現在)は、平成19年2月1日現在の全戸数7,550戸を対象に行い、回答が得られたのは4,708戸(廃業等を含む)で回答率は62.4%である。

集計に使用したのは無効回答(休業中、廃業予定、アンケート項目に無回答等)と廃業を除く4,453戸である。

経営者の平均年齢は57.9歳で昨年より0.1歳上がったが同じ経営者が経営を継続していれば毎年1歳加齢することを考えると、世代交代が行われていることが伺える。地域別では近畿、中国・四国、九州・沖縄が全国平均を上回った。

2. 経営関係

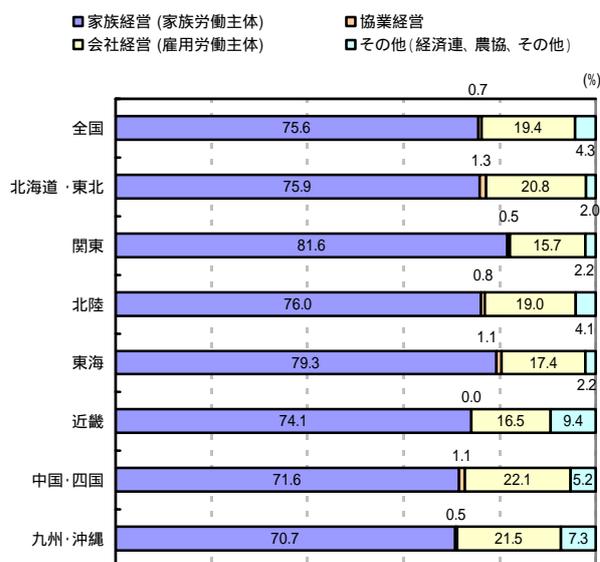
あなたの養豚経営は、次のどれに当てはまりますか。(は1つ)

経営形態(地域別)

		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
家族経営 (家族労働主体)	(戸)	3,365	722	990	92	214	63	194	1,090
	(%)	75.6	75.9	81.6	76.0	79.3	74.1	71.6	70.7
協業経営	(戸)	33	12	6	1	3	0	3	8
	(%)	0.7	1.3	0.5	0.8	1.1	0.0	1.1	0.5
会社経営 (雇用労働主体)	(戸)	863	198	190	23	47	14	60	331
	(%)	19.4	20.8	15.7	19.0	17.4	16.5	22.1	21.5
その他	(戸)	192	19	27	5	6	8	14	113
	(%)	4.3	2.0	2.2	4.1	2.2	9.4	5.2	7.3
合計	(戸)	4,453	951	1,213	121	270	85	271	1,542
	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

経営形態は、家族経営75.6%(対前年1.7ポイント減)、協業経営0.7%(同0.1ポイント減)、会社経営19.4%(同1.2ポイント増)その他(経済連・農協・その他)4.3%(同0.6ポイント増)であった。

地域別では、家族経営で九州・沖縄が1,090戸と最も多いが地域内割合が高いのは関東81.6%、低いのは九州・沖縄の70.7%である。一方会社経営でも九州・沖縄が331戸と最も多いが、地域内割合が高いのは中国・四国22.1%、低いのは関東の15.7%であった。

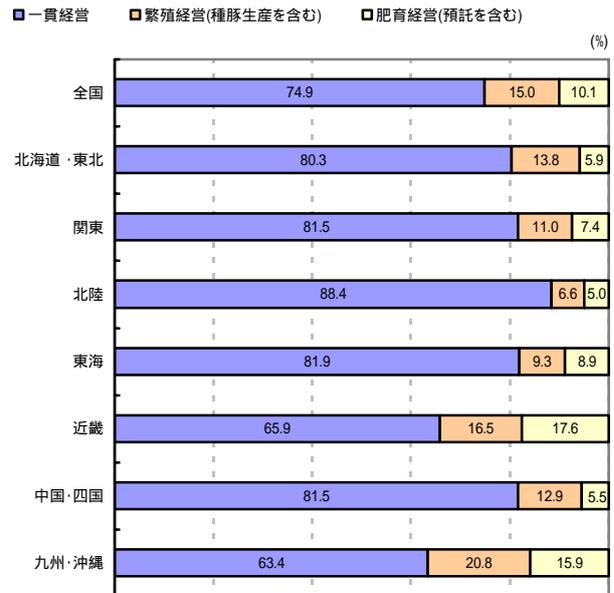


経営タイプ（地域別）

		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
一貫経営	(戸)	3,335	764	989	107	221	56	221	977
	(%)	74.9	80.3	81.5	88.4	81.9	65.9	81.5	63.4
繁殖経営 (種豚生産を含む)	(戸)	667	131	134	8	25	14	35	320
	(%)	15.0	13.8	11.0	6.6	9.3	16.5	12.9	20.8
肥育経営 (預託を含む)	(戸)	451	56	90	6	24	15	15	245
	(%)	10.1	5.9	7.4	5.0	8.9	17.6	5.5	15.9
合計	(戸)	4,453	951	1,213	121	270	85	271	1,542
	(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

経営タイプでは、一貫経営が74.9%、繁殖経営15.0%、肥育経営10.1%と前年とほぼ同様の構成割合であった。

地域別では、一貫経営は関東が989戸と最も多いが地域内割合では北陸88.4%、東海81.9%、関東81.5%と続き最も低いのが九州・沖縄の63.4%であった。繁殖経営では九州・沖縄が320戸と全体の48.0%と半数を占め地域内割合も20.8%と最も高く、逆に最も低いのは北陸6.6%であった。肥育経営でも九州・沖縄が245戸と全体の54.3%と半数を超えているが地域内割合では近畿17.6%に次いで15.9%となっている。肥育経営の地域内割合が最も少ないのは北陸5.0%であった。



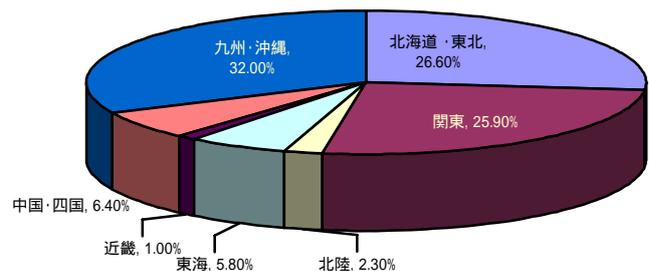
3. 飼養頭数

子取り用雌豚（全体頭数、地域別）

		全国	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
純粋種	(頭)	83,508	14,688	13,034	1,579	2,791	313	1,776	49,327
	(%)	13.1	8.6	7.9	10.8	7.5	5.1	4.5	24.1
交雑種	(頭)	555,988	155,404	152,812	12,979	34,295	5,787	39,076	155,635
	(%)	86.9	91.4	92.1	89.2	92.5	94.9	95.5	75.9
合計	(頭)	639,496	170,092	165,846	14,558	37,086	6,100	40,852	204,962
地域別割合	(%)	100.0	26.6	25.9	2.3	5.8	1.0	6.4	32.0

子取り用雌豚の全頭数は639,496頭で、その内純粋種は83,508頭(13.1%)、純粋種の割合が高いのは九州・沖縄24.1%でこれは、次の品種割合で示されている通りパークシャーの割合が高いことによる。

地域別では、子取り用雌豚が多いのは九州・沖縄、北海道・東北、関東の順でこの地域で全体の84.9%を占めており前年(83.8%)より1.1ポイント増加していた。

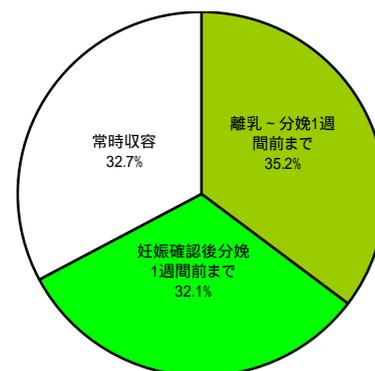
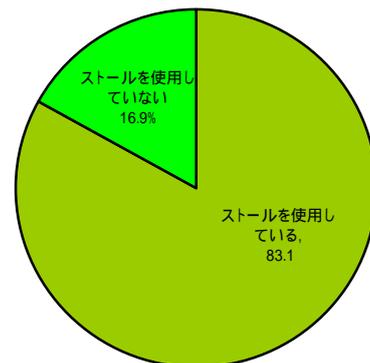


4. 飼養管理状況

ストールの使用状況

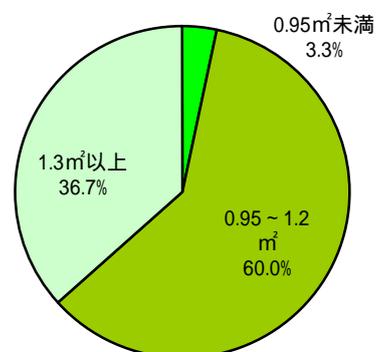
		回答者数	割合
ストールを使用している		3,137	83.1
ストール使用の時期	離乳～分娩1週間前まで	1,061	35.2
	妊娠確認後～分娩1週間前まで	966	32.1
	常時収容	985	32.7
	小計	3,012	100.0
ストールを使用していない		636	16.9
合計		3,773	100.0

回答のあった農場の83.1%がストールを使用しており、使用時期は「離乳～分娩1週間前まで」と「妊娠確認後～分娩1週間前まで」がそれぞれ約3割で期間を限って使用している割合が3分の2、常時使用している割合が3分の1であった。



ストールの面積

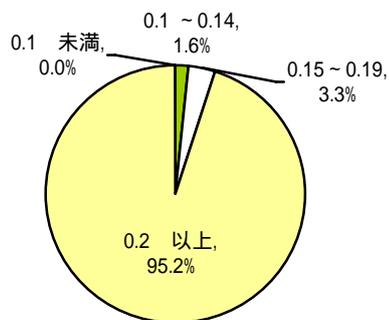
	回答数	割合
0.95 m ² 未満	80	3.3
0.95～1.2 m ²	1,455	60.0
1.3 m ² 以上	890	36.7
合計	2,425	100.0



1頭当たりの収容面積（スノコ豚舎）

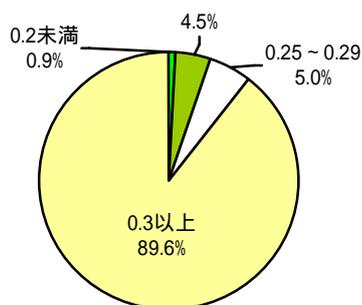
(1) 離乳～10kg

m ² /頭	回答数	割合
0.1 未満	0	0.0
0.1～0.14	22	1.6
0.15～0.19	46	3.3
0.2 以上	1,339	95.2
合計	1,407	100.0



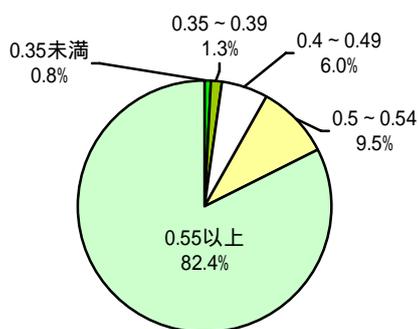
(2) 11kg～30kg

m ² /頭	回答数	割合
0.2 未満	13	1.0
0.2～0.24	64	4.7
0.25～0.29	73	5.3
0.3 以上	1,215	89.0
合計	1,365	100.0



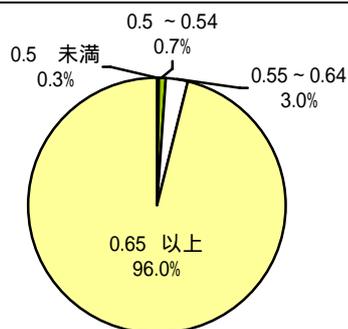
(3) 31kg～70kg

m ² /頭	回答数	割合
0.35 未満	10	0.8
0.35～0.39	15	1.3
0.4～0.49	72	6.0
0.5～0.54	114	9.5
0.55 以上	985	82.4
合計	1,196	100.0



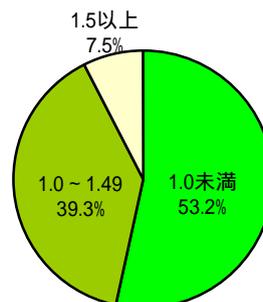
(4) 71kg～110kg

m ² /頭	回答数	割合
0.5 未満	4	0.3
0.5～0.54	9	0.7
0.55～0.64	38	3.0
0.65 以上	1,231	96.0
合計	1,282	100.0



(5) 111kg 以上

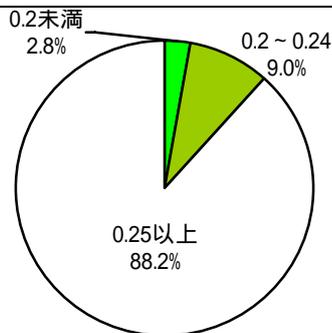
m ² /頭	回答数	割合
1.0 未満	612	53.3
1.0～1.49	451	39.3
1.5 以上	86	7.5
合計	1,149	100.0



1頭当たりの収容面積（オガコ豚舎）

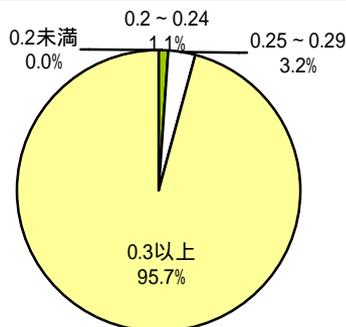
(1) 離乳～10kg

m ² /頭	回答数	割合
0.2 未満	8	2.8
0.2 ～0.24	26	9.0
0.25 以上	256	88.3
合計	290	100.0



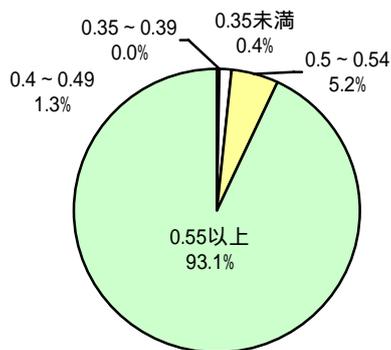
(2) 11kg～30kg

m ² /頭	回答数	割合
0.2 未満	0	0.0
0.2 ～0.24	4	1.1
0.25～0.29	11	3.2
0.3 以上	333	95.7
合計	348	100.0



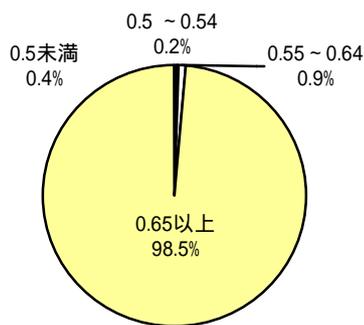
(3) 31kg～70kg

m ² /頭	回答数	割合
0.35 未満	2	0.4
0.35～0.39	0	0.0
0.4～0.49	7	1.3
0.5～0.54	29	5.2
0.55 以上	519	93.2
合計	557	100.0



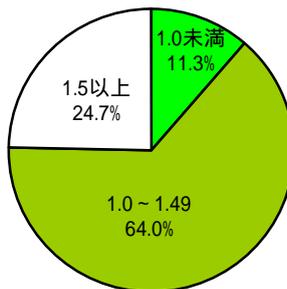
(4) 71kg～110kg

m ² /頭	回答数	割合
0.5 未満	2	0.4
0.5～0.54	1	0.2
0.55～0.64	5	0.9
0.65 以上	555	98.6
合計	563	100.0



(5) 111kg 以上

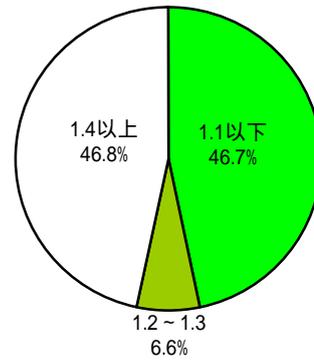
m ² /頭	回答数	割合
1.0 未満	58	11.3
1.0～1.49	329	64.0
1.5 以上	127	24.7
合計	514	100.0



スノコの溝の幅（スリット幅）について（離乳～30Kg）

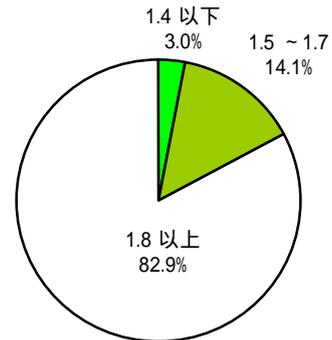
(1) 離乳～30kg

cm	回答数	割合
1.1 以下	519	46.7
1.2 ～1.3	73	6.6
1.4 以上	520	46.8
合計	1,112	100.0



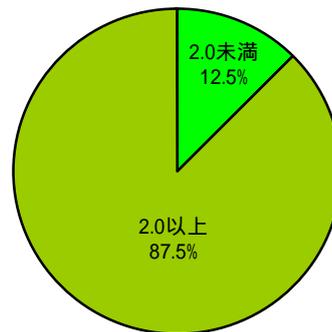
(2) 30kg～70kg

cm	回答数	割合
1.4 以下	28	3.0
1.5 ～1.7	131	14.1
1.8 以上	767	82.8
合計	926	100.0



(3) 71kg 以上

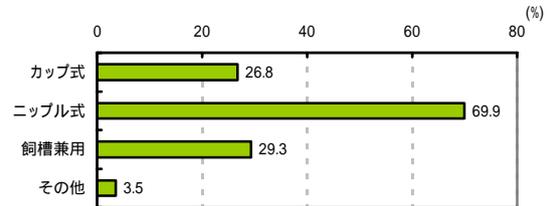
cm	回答数	割合
2.0 未満	118	12.5
2.0 以上	824	87.5
合計	942	100.0



肥育豚舎の給水器の種類（複数回答）

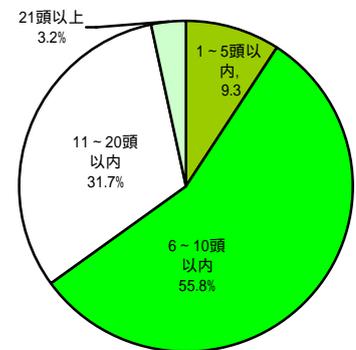
	回答者数	回答数	割合
カップ式		1,046	26.8
ニップル式		2,729	69.9
飼槽兼用		1,143	29.3
その他		137	3.5
合計	3,902	5,055	129.5

肥育豚舎の給水器の種類はニップル式が69.9%と最も多く、次いで飼槽兼用が29.3%、カップ式が26.8%であった。



群飼育の場合の給水器 1 個当たり頭数

	回答数	割合
1～5 頭以内	349	9.3
6～10 頭以内	2,083	55.8
11～20 頭以内	1,182	31.7
21 頭以上	120	3.2
合計	3,734	100.0

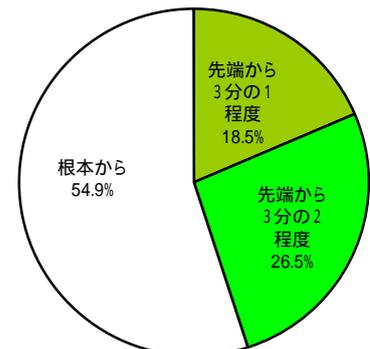
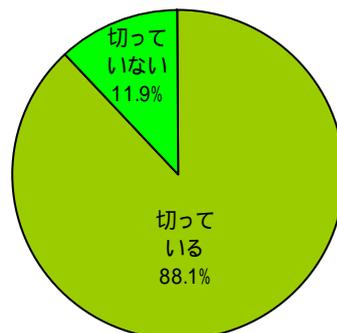


群飼の場合の給水器 1 個当たりの肉豚頭数は、6～10 頭に 1 個が 55.8%と半数を上回り、次いで 11～20 頭が 31.7%と続いており、1～5 頭以内と 21 頭以上はそれぞれ 9.3%、3.2%と少なかった。

新生子豚の「歯切り」

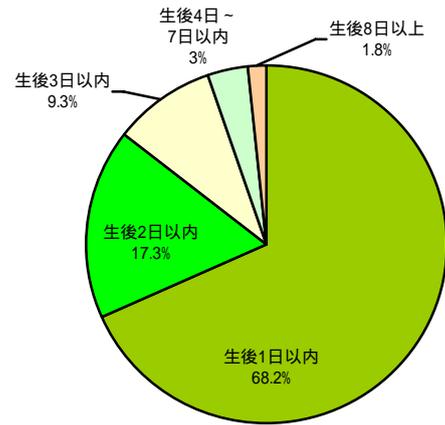
	回答数	割合	
切っている	3,417	88.1	
切断位置	先端から 3 分の 1 程度	601	17.6
	先端から 3 分の 2 程度	861	25.2
	根本から	1,785	52.2
切っていない	462	11.9	
合計	3,879	100.0	

新生子豚の「歯切り」を行っているのは 88.1%と 9 割近くを占め、切断位置では、「根本から」が 52.2%と半数を超えており、「先端から 3 分の 2 程度」が 25.2%で「根本から」と併せると 8 割を超えていた。



「歯切り」の時期

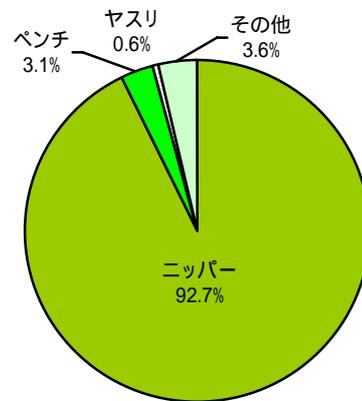
	回答数	割合
生後1日以内	2,313	68.2
生後2日以内	586	17.3
生後3日以内	317	9.3
生後4日～7日以内	115	3.4
生後8日以上	61	1.8
合計	3,392	100.0



「歯切り」の時期は、「生後1日以内」が68.2%で3分の2を超えており、生後7日以内までで98.2%とほとんど占めていた。

「歯切り」の道具

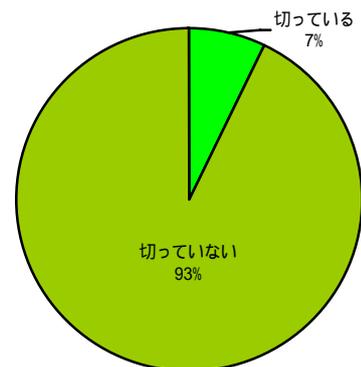
	回答数	割合
ニッパー	3,123	92.7
ペンチ	105	3.1
ヤスリ	19	0.6
その他	121	3.6
合計	3,368	100.0



「歯切り」の道具では、ニッパーが92.7%とほとんどであった。

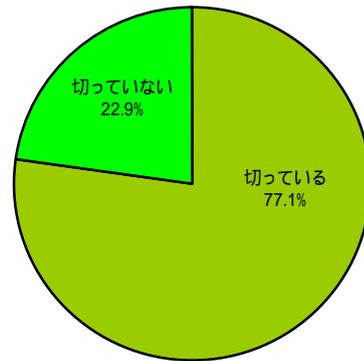
年齢1年以上の雄の「牙切り」

	回答数	割合
切っている	235	7.1
切っていない	3,089	92.9
合計	3,324	100.0

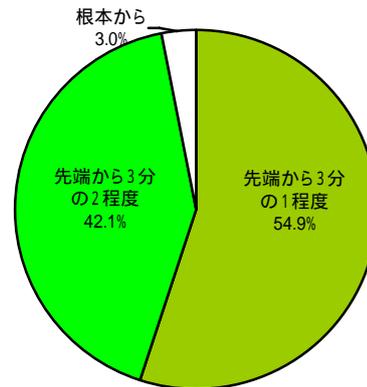


新生子豚の「断尾」

	回答数	割合	
切っている	2,972	77.1	
切断位置	先端から3分の1程度	1,583	53.3
	先端から3分の2程度	1,214	40.8
	根本から	86	2.9
切っていない	884	22.9	
合計	3,856	100.0	

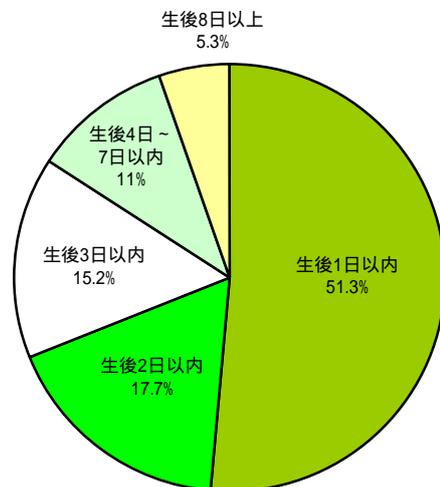


断尾を行っているのは、77.1%で約8割を占め、切断の位置では「先端から3分の1程度」53.3%、「先端から3分の2程度」40.8%で「根本から」は2.9%と非常に少なかった。



「断尾」の時期

	回答数	割合
生後1日以内	1,505	51.2
生後2日以内	521	17.7
生後3日以内	448	15.2
生後4日～7日以内	310	10.5
生後8日以上	156	5.3
合計	2,940	100.0

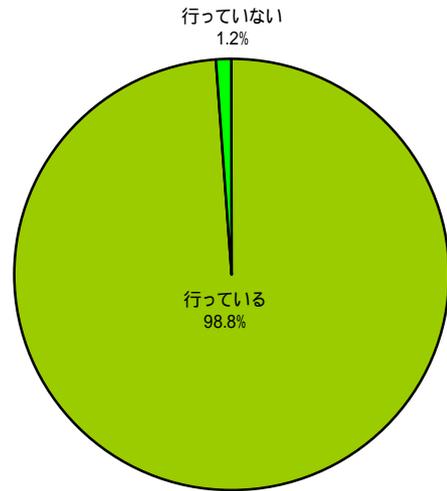


断尾の時期は、「生後1日以内」が51.2%と半数を超え、生後7日以内で94.6%となっていた。

雄豚の「去勢」

	回答数	割合
行っている	3,767	98.8
行っていない	47	1.2
合計	3,814	100.0

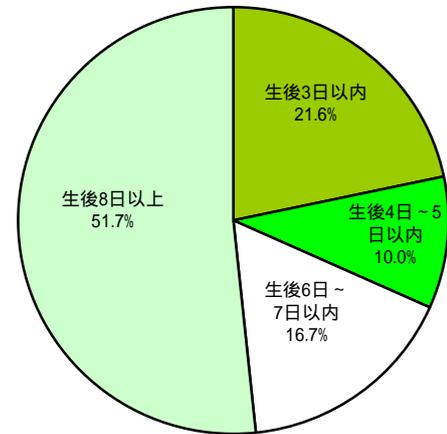
「去勢」を行っているのは 98.9%でほとんどを占めている。僅かに 1.2%が行っていないと回答しているが、これは種豚生産者の回答と類推され、肥育豚はほぼ 100%去勢していると考えられる。



雄豚の「去勢」の時期

	回答数	割合
生後3日以内	809	21.6
生後4日~5日以内	374	10.0
生後6日~7日以内	625	16.7
生後8日以上	1,941	51.8
合計	3,749	100.0

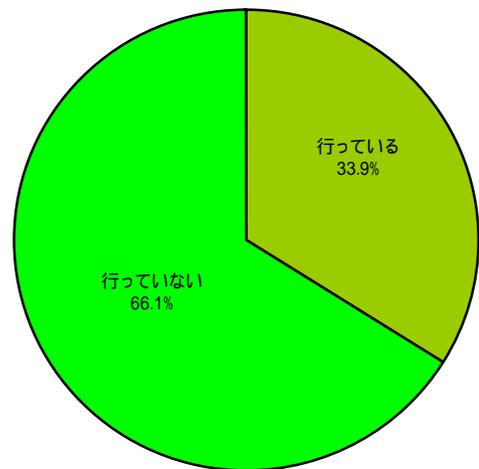
「去勢」の時期は、「生後8日以上」が 51.8%と半数を超えていた。



個体識別のための「耳刻」

	回答数	割合
行っている	1,234	33.9
行っていない	2,404	66.1
合計	3,638	100.0

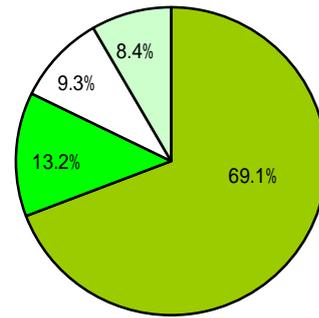
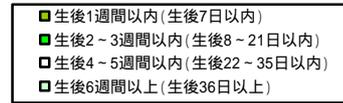
個体識別のための「耳刻」は 33.9%が実施していると回答していたが、これは、純粋種と子取り用雌豚に対するものがほとんどで、肥育豚への実施は僅かと考えられる。



「耳刻」の実施時期

	回答数	割合
生後1週間以内(生後7日以内)	836	69.2
生後2~3週間以内(生後8~21日以内)	159	13.2
生後4~5週間以内(生後22~35日以内)	112	9.3
生後6週間以上(生後36日以上)	101	8.4
合計	1,208	100.0

「耳刻」の実施時期は、「生後1週間以内」が69.2%と約3分の2を占めており、次いで「生後2~3週間以内」が13.2%であった。

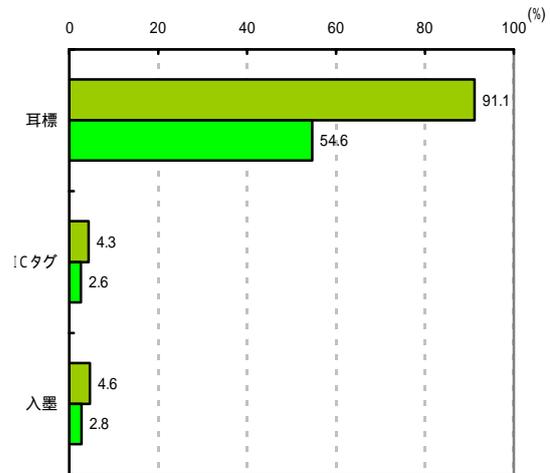


個体識別のため「耳刻」以外に実施しているもの

	回答数	割合	耳刻をしている に対する割合
耳標	674	91.1	54.6
ICタグ	32	4.3	2.6
入墨	34	4.6	2.8
合計	740	100.0	60.0

個体標識のため「耳刻」以外で実施しているものは、「耳標」が91.1%とほとんどで、次いで「入墨」が4.6%、最近話題となっている「ICタグ」は4.3%と少数であった。また、個体標識で「耳刻」を実施していると回答した1,234戸に対する割合を見ると「耳標」が54.6%と半数を超え、全体では60%が複数の個体標識を採用していることが伺えた。

■ 識別方法割合 ■ 耳刻をしているに対する割合



豚舎の照明

	繁殖豚舎		肥育豚舎	
	回答数	割合	回答数	割合
自然光で明るいので、ほとんど点灯しない	2,114	59.2	2,512	72.8
豚舎が暗く、作業時のみ点灯している	937	26.3	781	22.6
豚舎が暗く、昼間は常に点灯している	260	7.3	95	2.8
豚舎が暗く、昼夜関係なく時間を設定して点灯している	257	7.2	62	1.8
合計	3,568	100.0	3,450	100.0

繁殖豚舎、肥育豚舎ともに、「自然光で明るいので、ほとんど点灯しない」の割合が最も高く、次いで「豚舎が暗く。作業時のみ点灯している」が続いており、「点灯していない」割合は肥育豚舎が高く「点灯している」割合は繁殖豚舎が肥育豚舎を上回っている。

■ 自然光で明るいので、ほとんど点灯しない
■ 豚舎が暗く、作業時のみ点灯している
□ 豚舎が暗く、昼間は常に点灯している
□ 豚舎が暗く、昼夜関係なく時間を設定して点灯している

